

- 2面 平成26年度国交省 公園緑地等関係事業予算 事業費318億円に
【学会の目・眼・芽】造園業に関わる人材の育成
(公社)日本造園学会幹事・兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科准教授 大藪 崇 司
- 3面 【特集】地域リーダーズ活動報告 地域リーダーズ総リーダー 森川 昌紀
- 4面 【ふるさと自慢】滋賀県 滋賀の「石」巡り 平塚英史 (株)宝山園
【緑滴】設計としてできること、考えていること
島倉 舞 (株)石勝エクステリア)

日造協会の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。会員の方々へのメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載をしていますので、ご活用ください。



挨拶する藤巻司郎会長 (④総支部長・支部長合同会議 ⑤花と緑のつどい)

総支部長・支部長合同会議開く 花と緑のつどいも盛大に開催

総支部長・支部長合同会議と花と緑のつどいを全国都市緑化しずおかフェア開催中の静岡県浜松市内「グランドホテル浜松」で4月24日開催した。

総支部長・支部長合同会議を4月24日14時から開催した。

冒頭、藤巻司郎会長が、参加者や開催準備に当たった中部総支部、静岡県支部へのお礼の後、「この1年を振り返ってみると、「アベノミクス」による公共事業費の確保・拡大、労務費単価の引上げ、ダンピング対策、社会保険等未加入対策、造園工事の内容・例示の追加など、諸施策が矢継ぎ早に打ち出され、造園建設業を取り巻く経営環境は、大きく変化したと感じている。これも、日造協として長年取り組んでいた要望活動が、ようやく一定の成果を得たものと受け止めている。この機会に、日造協が全国組織として果たすべき役割を一層発揮し、会員の方々のご期待に応え得よう、造園業界の社会的認知度の向上、造園発注の拡大など受注環境の改善、法定福利費の確保等による雇用環境の改善、労働災害の防止に向けた安全衛生管理の徹底、資格取得の促進による技術者・技能者の育成など、会員各位の事業展開に役立つ諸事業に、皆様と力を合わせ取り組んでいきたいと思っている。本日は、平成26年度事業計画等についてご報告するとともに、今回、初の試みとして自由討議の時

間を設け、「造園業界の持続的な発展のために、今、何をなすべきか」をテーマに活発な意見交換をお願いしたい」と述べた。

その後、内山晴芳静岡県支部長挨拶の後、議題に入り、平成26年度事業計画・収支予算、社会保険等未加入対策、職長・安全衛生責任者教育の実施、要望・提言活動、地域リーダーズの活動、国際委員会活動、資格関係の年間スケジュール、日本造園学会との連携事業、火災保険特約サービス商品、日造協団体医療保険等、消費税率改正に伴う料金改定、厚生年金基金解散後の対応について、本部から報告。意見交換を行った。

また、18時からは「花と緑のつどい」を開催。内山晴芳静岡県支部長の開会のことばの後、藤巻司郎会長が主催者挨拶。次いで、ご来賓から、辻野恒一国土交通省中部地方整備局建政部公園調整官、石川亨静岡県交通基盤部都市局長、鈴木康友浜松市長(田中文雄花みどり担当部長代読)がご挨拶され、ご来賓のご紹介の後、太田康隆浜松市議会議長のご発声で乾杯、懇談の場となり、大島嘉七中部総支部長の閉会のことばで盛況のうち、散会となった。

樹林

日造協理事、木上梅香園(株)代表取締役

木上 正 貢

気象変動枠組条約の協議経過と造園業界の役割 ～造園業は緑の景観・環境の創造事業～



皆様覚えておられましょうか。1997年に京都で開催された国連気象変動枠組条約締約国会議(COP3)で、我が国のリーダーシップの下、先進国の拘束力のある削減目標を明確にした「京都議定書」が合意され、世界全体での温室効果ガス排出削減の大きな一歩を踏み出しました。

その後、毎年、国連気象変動枠組条約締約国会議が開催されていますが、2013年11月にポーランド・ワルシャワにおいて、開催されたCOP19では、先進国と途上国の利害がぶつかり合い、温室効果ガス削減を義務付けた「京都議定書」方式を変更し「自主的に決める」という方式に後退してしまいました。

地球温暖化防止対策は地球環境を守るために、欠くべからざる施策であり、次世代に緑の景観、環境を残すため、今こそ行動を起こすべきだと考えます。日造協が目指す「緑の景観・環境」の創造は、地球温暖化防止を願う全世界の人々の願いを具現化する施策であり、造園業界が一致団結して推進しなければなりません。

地球上の全ての生き物は、植物によって生かされています。

造園技術は、植物の植生や生態系に関わる繊細かつ高度な専門技術、更には気候、土質、水質等の環境を意識した「緑の技術」であり、地域の景観、環境づくりの一端を担うとともに、地球温暖化防止対策や都市環境の改善に貢献できる技術であります。

日造協は、「緑の景観・環境」創造事業を目指し人と自然が共生する安心・安全な国土と都市づくり、健康で豊かな心を育む、緑の景観・環境づくりに努めています。緑は、人の心に「安らぎ・やさしさ・豊かさ」を醸成すると共に地球温暖化対策や都市環境づくりに貢献しています。

この様な日造協の理念に基づき、九州総支部では、平成25年12月12日、国土交通省九州地方整備局長を始めとする職員の皆様方に「九州の街路樹再生と今後への提案」を行ったところ、今回の提案は、日造協九州総支部、ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部、日本公園施設業協会九州・沖縄支部、日本植木協会九州ブロックのメンバーが集まり、どうも街路樹の様子が少しおかしいという問題提起がされました。そこで、各県の街路樹の現状を調べ、データを整理し、提案という形で御説明させて頂き、今後の課題として、1番目は、国道のみにかかわらず、県道、市町村道、街路樹の現況の調査・分析を行いどうしたらいいのか検討する必要があること。2番目として、街路樹というのは1回植えたら永遠のものではなく30年が限度という話もあります。種々の問題で、著しく樹形が損壊している街路樹については更新をしていかないと景観が保てないこと。3番目は、地域の気候、歴史や文化を表現できる樹木を導入できないだろうかということ。例えば、県境などにおいて南北の移動感——何か宮崎県に入ったなと感じられる樹種への更新。4番目は、モデル路線の整備の試行を検討する機会をお与えいただき、私どもで自主的に調査・分析を行い、道路管理者に提案させて頂くこと。

以上の4項目について今後の課題として九州地方整備局に提案をしています。

現在報告書の作成作業を行っておりますので出来あがり次第、関係者の皆様に報告をしたいと考えています。

今後とも、日造協の活動方針である「緑の景観・環境」の創造事業を進め、地球温暖化対策の一翼を担って参りましょう！

造園 CPD 会員申込受付中

造園 CPD の今年度の継続確認・新規入会受付が始まりました。

メ切は5月31日ですので、お早めに手続きを行って下さい。

造園 CPD 制度については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.jalc.or.jp/cpd/index.html>

植栽基盤診断士補研修会 今年度の開催日程が決定

植栽基盤診断士補研修会の今年度開催日程をホームページに掲載しました。

“いきいきとしたみどりは、理想の土壌から！”です。この機会にぜひ、受講して下さい。 <http://www.jalc.or.jp/syokusai/syokusai03.html#page02>

平成26年度 通常総会

講演会・意見交換会

6月25日(水) 14:00～

グランドアーク半蔵門
東京都千代田区隼町1-1

☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。

2014年 春の叙勲・褒章

日造協から2氏受章

2014年春の叙勲・褒章受章者が発表され、日造協関係で2氏が受章した。

【黄綬褒章】

小林正典氏(62)、京都府、小林造園代表取締役

為永一夫氏(64)、長崎県、タメナガ造園代表取締役



小林正典氏



為永一夫氏

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

平成 24・25 年度 地域リーダーズ 活動報告



地域リーダーズ
総リーダー 森川 昌紀

平成 24 年度から日造協事業委員会の地域リーダーズの総リーダーに就任しさまざまな活動を行ってきました。そこで、これまで 2 年間の活動報告をさせていただきます。

【平成 24 年度】

8 月…宮城県仙台市で勉強会

平成 24 年 8 月 21 ～ 22 日に宮城県仙台市で勉強会を開催し、各総支部からの参加者をはじめ、地元宮城県の会員ら約 20 名が参加しました。1 日目は、地域リーダーズ会合の後、仙台市建設局百年の杜推進部公園課 佐々木亮課長に、仙台市の都市計画の概要として「仙台市の街路樹について」と復興計画「東日本大震災と仙台市の公園緑地」について講演していただきました。仙台市の街路樹は、戦後の復興計画で道路面積が 2.6 倍になり、線から面に発展させることを基本方針に本格化し「杜の都」に相応しく風格があり、修景美を備えたケヤキ、イチョウ、トウカエデなどが選ばれ、その中から、各街路に相応しい樹種を選んで植栽してきたと紹介していただきました。今後、大きくなり過ぎた樹木のコンパクト化、若木や周辺環境に適した樹種への更新など、歩道幅員に見合った管理を進め、住民の要望を踏まえながらも統一美を発揮することが並木として重要と、意見の調整、樹高と下枝高の統一を図った維持管理を行っていくそうです。

東日本大震災の仙台市震災復興計画は、計画期間を平成 23 年度から平成 27 年度とし、「美しい海辺を復元する」海辺の交流再生プロジェクトを計画し、海岸防災林を整備し、貴重な自然環境である干潟の再生、市民が自然と触れ合える交流ゾーンなど、東部海岸の再生を進め、海岸公園復興基本構想策定をはじめ、都市公園の防災対策強化、防災集団移転先の公園整備（居久根の再生）、ブロック塀から生垣等への転換、緑化による被災者支援などが進められる計画を説明していただきました。

勉強会の後は、交流会を開催し地元の若手造園関係者とのネットワーク作りと親睦を深めました。

2 日目は、仙台市近郊の被災地を地元仙台の地域リーダーの古積造園土木㈱の古積 昇社長に案内していただきました。

被災地の現状と復興計画について、仙台市→女川町→石巻市→東松島市→松島町→塩釜市→名取市と視察し（写真）、



仙台平野は田園地帯、そのほとんどが津波被害にて海水や油につかり使用不可となっています。女川町は 14.8 m の津波に襲われ 915 名の死者・行方不明者、石巻市 3,735 名、東松島市 1,105 名・松島町の 2 名、松島は大小あわせて 200 以上の島があるため津波被害が少なかったそうです。塩釜市 32 名・名取市 966 名・仙台市 829 名の死者・行方不明者、今回まわった市町村だけでも 7,000 名以上の死者・行方不明者、宮城県全体で 11,232 名の死者・行方不明者、東日本大震災全体で 19,009 名の死者・行方不

明者ですのでいかに宮城県の被害が大きいかわかります。被災された方々は仮設住宅に入居されており、家賃は無料ですが光熱費等は自己負担とのことです。

この夏は大変な猛暑で熱中症になる方も多くまた、冬は暖を取ると結露がひどく天井から水がしたたり落ちてくる。やむなくアパート等に住まれる方々には家賃補助として 3 ～ 4 万円の補助があるそうです。

ボランティアの現状は、がれきの片づけは少なくなっている。なぜなら、ボランティアを派遣する段取りがつかないため断っている状態だそうです。

むしろ仮設住宅に入居されている方々へのボランティア活動が求められている。被災された方は、仮設住宅から出たがらない。不便な所にあるため車もない方々は出られない。現地を案内していただいた方は、餅つきや流しソーメンなどでボランティアをされているそうです。3,500 億円以上の義援金が集まりましたが、義援金はまったく配布されていないとのこと。どうなっているのでしょうか？復興計画は、津波に強い街づくりを計画。海岸沿いに、がれきを利用し盛り土し植栽し二重の盛り土する計画で、街の被害を食い止める計画。失われた街の盛り土は広大すぎてまだまだ見当もつかない様子です。

被災地の傷は根深いものがあり、とても被災されている方々はまだまだ癒されません。一日も早い復興をと思いますが、なかなかそうは行かないと感じました。引き続き、ご支援を行わなくてはならないと感じた次第です。

10 月…東京で勉強会

平成 24 年 10 月 12 ～ 13 日には、東京にて勉強会を開催し、全国より若手・中堅経営者、幹部候補者等 計 38 名が集まりました。初日は、地域リーダーズの会合の後、技術情報共有発表会（現 造園技術フォーラム）に参加し全国各地で行われている造園技術について学び、交流会では発表者と共に親睦を図り時の経つのを忘れるほど盛り上がりしました。翌日は、全国都市緑化フェア TOKYO の 3 会場を視察した。早朝より上野恩賜公園にて、東京都公園協会公園事業部の大内弘部長に案内していただき、東北復興への想いや祈りをコンセプトとした東北「農」の庭や国立博物館を借景とした造園技法や既存林を改修し集客する方法を学びました。日比谷公園では、同協会都市緑化推進室の金田哲男調査役に最先端の緑化技術やなかなか聞くことのできないガーデンコンテストでの施工者の苦労話やエピソードなど丁寧に説明していただき出展者の想いと力の入れ方が良くわかりました。浜離宮恩賜庭園（写真）で



は、サービスセンターの松井修一センター長より庭園全体の説明から江戸文化体験エリアで当時の街づくりを学び、宮内庁より 1 週間限定で貸し出された貴重な 550 年の松の盆栽を運良く拝見でき、普段非公開の松の茶屋も見学し、貴重な体験が出来ました。

3 月…振興会の座談会に参加

平成 25 年 3 月 4 日には、日本の造園・環境緑化の各分野を代表する 6 団体で構成する「造園・環境緑化産業振興会」による座談会「造園・環境緑化の将来の展望」に、日造協の代表として地域リーダーズの総リーダーの私が参加し、20 年後の造園業界を背負って立つ若手世代の方々と学界の方々とこれからの若い人材確保・育成をどうすればよいかを共に考えディスカッションしました。

【平成 25 年度】

次代担う若手にアンケートを実施

平成 25 年 4 月には、全国の造園施工業界の実情を把握し次世代の事業経営に活かすため、次代を担う若手の皆様を対象にアンケートを実施しました。

内容

①造園業界について（造園とは、業界に対しての期待、市民の造園に対する認識度）

②日造協とその活動について（日造協に求める事は、日造協にギャップを感じているか）

③所属する日造協支部とその活動について（日造協支部に同上）

④地域について（条例や制度、新たな取り組み等、日造協の資格を有効利用しているか）

⑤勤務先について（経営改善、新たな取り組み、事業承継（株資産人材技術）等）

⑥設問以外に困っていること、思うこと、要望等を実施しました。

34 件の回答をいただき、若手の皆様が考えていることを多少であるが把握することができた。これらの結果について地域リーダーズの会合で確認し、今後の活動方針を決める際の参考にさせていただいております。

6 月…低影響開発など学ぶ

平成 25 年度の第 1 回目の勉強会として、6 月 24 ～ 25 日に東京にて実施しました。

1 日目は日造協通常総会の懇親会に参加し産官学のメンバーと交流を図りました。その後、地域リーダーズの交流会を開催し全国の若手の方々とのネットワーク作りと親睦を深めました。

2 日目は地域リーダーズ会合（写真）



の後、講演会の第 1 部として「造園業界の今」として日造協高梨雅明常任顧問により講演をしていただきました。第 2 部は「L.I.D. について」L.I.D. の第一人者であられる日本ゼリスケープデザイン研究協会の小出兼久理事に講演していただきました。L.I.D. とは Low Impact Development の頭文字で低影響開発のことである。新たなビジネスモデルの展望として、水と植物を通してヒートアイランド現象や地球温暖化の緩和に役立つ手法について詳しく解説していただきま

した。

2 月…90 人参加し全国の情報を交換

平成 26 年 2 月 7 ～ 8 日、福岡県北九州市の北九州国際会議場で勉強会を開催し、全国各地から約 90 人が参加しました。前半に各地域の活動発表として、北海道総支部から㈱コクサクの秋山健専務取締役が「パークゴルフ事業の新しい取り組み事例」を、関東・甲信総支部から㈱新松戸造園の松戸克浩専務取締役が「基盤整備作業機（FTM）を用いた造園式芝生除染・更新工法」を、近畿総支部から㈱高石造園土木の高石正弘専務取締役が「京都府支部における街路樹剪定士等資格制度の活用について」、九州総支部から㈱葉隠緑化建設 久保和則専務取締役が「造園業の近年の取り組み事例及び今後の展望について」をテーマに各地域での活動状況を発表していただきました。後半に行政による講演として地元の北九州市役所から建設局公園緑地部緑政課の茂田淳係長が「北九州市の公園緑地行政の取り組み～パノラマの緑とまちの緑がいきづく環境首都をめざして」をテーマに北九州市における公園整備事業の実例等を紹介していただきました。

今後の課題として、効率的な整備や管理の推進、質の高い整備と維持管理の実施（植栽基盤診断士、街路樹剪定士の活用）を挙げ、「整備費や維持管理費のコスト削減が結び付けば、資格保有者の活用、活躍の場が広がる可能性がある」などとわかりやすく説明していただきました。続いて、地元の㈱九州造園の藤田良司社長が北九州市における植栽基盤診断士と街路樹剪定士の資格の活用について、雨水を使った高架下での緑化事業などの成功事例などを紹介していただきました。参加者は積極的に質問しながら熱心に聴講しました。勉強会のあとは恒例の交流会を開催し地元の若手造園関係者とのネットワーク作りと親睦を深めました。

2 日目は、元北九州市役所の方をはじめ、内山緑地建設㈱の大神光明氏と㈱九州造園の藤田良司社長により北九州市内で実施されている雨水を利用した緑化地を案内していただき、雨水を敷地内の植物や土壌を介して出来る限り浄化し、地中滞留と浸透を増加させることにより自然の水循環に寄与し、結果的に環境への負荷を低減させる技術を視察しました。河川の負担を減らしゲリラ豪雨やヒートアイランドなどの対策をされている北九州市は、まさに官民一体となって力を合わせ活動している理想的な取り組みではないかと感じました（集合写真）。



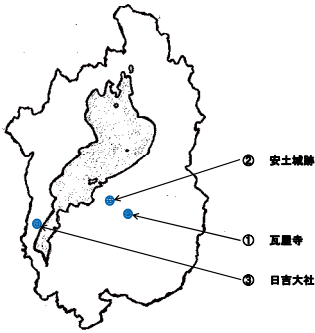
地域リーダーズでは、この 2 年間様々な勉強会と交流会を開催させていただき全国各地の素晴らしい知り合いが広がり造園力に意識が高まりました。

これからも、全国各地の様々な情報を共有し地域の活性化を図ると共に明日の事業の糧となる勉強会を開催し、新たなビジネスの創出に繋がりたいと考えております。そして今後益々、全国各地の皆様との交流を深めて行きたいと思います。

ふるさと自慢

滋賀の「石」巡り
瓦屋寺・安土城跡・日吉大社

滋賀のお勧めスポットとして、「石」繋がりで次の①～③を紹介します。
①瓦屋寺（東近江市建部瓦屋寺町）
箕作山の山腹にあるお寺で、聖徳太子創建の、四天王寺の瓦をこの地で焼いたのが寺の起りといわれています。
道から本堂までの長い参道の両側にはひな壇状に石垣で土留めされた平坦地があり、多くの坊舎があった事が伺えます。
坂道が無理な人は、本堂近くまで車で行けるので安心してください。
また モミジが植えられ、知る人ぞ知る紅葉の美しいお寺です。
②安土城跡（近江八幡市安土町）
信長は、近江盆地のド真ん中



に、最初の天主がある“みせる城”を築きました。
高い石垣が積み、5層7階の天主が建っていたのですから、まさしく「聳え立つ」といった印象だと思います。
山岳寺院の建立など、長年の石垣技術の発達があって、このような大きな岩の運搬や高い石垣の築造が可能になったのだと思います。
山本兼一（1956～2014）の『火天の城』には、巨石を山上へ運搬する様子が、生々しく



書かれています。
安土山は、当時、三方を湖に囲まれた岬で、街道にも、湖上にも目が届く重要な位置にあった事が分ります。
③日吉大社（大津市坂本）
比叡山の麓にある大社で、天台宗の守り神として信仰されてきました。
山王鳥居は合掌鳥居とも呼ばれ、神仏習合の名残。
モミジがたくさんあり紅葉の頃も美しい境内です。
この境内を流れる大宮川に



は、「大宮橋・走井橋・二宮橋」の石の橋があり、それぞれ石の組み方が異なり、石工の「匠」を感じます。
紹介した中で、瓦屋寺・日吉大社は、兵火や信長の焼打ちに遭いましたが、信仰の対象・民衆の拠り所として復興しております。
が、安土城天主は、本能寺の変後焼け落ち、今は石垣と礎石



だけとなっています。
近年、徐々に発掘調査され、石垣や追手道・屋敷跡の礎石など一部が復元されています。さらに調査・復元が進むのが楽しみです。
造園建設業に携わり、石を扱う方が多いと思います。研修や慰安旅行に来てみて下さい。
最後に昭和38年彦根生まれの「近江ちゃんぽん」（和風スープにたっぷり野菜のちゃんぽん）は、5種類の魚節と昆布のだしと醤油だれを合わせた、あっさりスープで、中太ストレート麺に野菜と豚肉の具がたっぷり、あっさりで、飽きの来ない味です。私は、半分くらい食べて、残りにお酢をレンゲに半分加えます。
近江は“街道の国”旅人を迎え、もてなし、送り出してきた土地です。何度でもお越しください。 株式会社山園 平塚英史

平成26年度 全国安全週間

7/1～7/7 実施 6/1～6/30 準備期間

平成26年度全国安全週間が、厚生労働省、中央労働災害防止協会の主唱で、平成26年6月1日から6月30日までを準備期間に、7月1日から7月7日まで実施される。

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、今年で87回を迎える。



この間、労働災害を防止するため、事業場では、労使が協調して、労働災害防止対策が展開されてきた。この努力により、労働災害は長期的には減少している。しかし、死亡災害は平成21年から大幅な増減を繰り返している。一方、休業4日以上死傷者数は平成22年からの3年連続の増加により歯止めがかかる見込みとなったものの、小幅な減少にとどまり、依然として厳しい状況にある。こうした状況を踏まえ、平成26年度の全国安全週間のスローガンについては、安全に関する経験やノウハウを産業の違いや世代を超えてつないでいくことの大切さを確認しつつ、それぞれの事業場において安全意識を高め、安全に対する慣れや過信を捨てて労働災害の防止に取り組むとともに、第三次産業を中心として事業者と労働者が一体となって取り組む日々の安全活動を推進し、労働災害の撲滅を目指す観点から、「みんなでつなぎ 高まる意識 達成しようゼロ災害」とし、この全国安全週間を契機として、それぞれの職場で、労働災害防止の重要性を認識し、安全活動の着実な実行を図ることとしている。

なお、日造協では協会名入りポスターを作成し、労働災害防止の周知を行います。どうぞご活用ください。



設計としてできること、考えていること

島倉舞

私は設計部に所属しており、外構植栽の基本設計から実施設計を行っています。集合住宅(マンション)をメインに、建売住宅、個人邸、農園などを今まで担当してきました。
案件により規模や打ち合わせをする相手がそれぞれ異なるので、戸惑うこともありました。しかし、基本的にお客様の思いを汲み取ってよい計画をし、それを形にするために良い方法を検討し提案をしていくことは変わらないので、私はできるだけ早い段階の打ち合わせから設計担当としてお客様と直接お会いしてイメージを共有できるようにしていました。



有できるようにしていました。

私は設計の経歴は長くありませんが、近年特にお客様の植栽に関する考え方も、必要最低限の緑地を確保するための植栽ではなく、魅力や付加価値になること、またその地域の環境に調和することを大切にしていることがとても多いと感じています。
特に都市部のマンションでは、限られた敷地に利用動線を確保しつつの植栽となるので、見せ場を確保することにすら苦労しますが、見せ場にはどれだけ効果的に植物の彩りであったり、自然らしさを感じられる要素を盛り込めるかを考えて設計をしています。地上の植栽地はもちろん、壁面緑化や屋上緑化などの建築と一体となった緑化も含めた提案をし、よりよい計画となるように試行錯誤しています。

日造協 団体保険制度のご案内

日造協団体保険制度は、昭和57年に設けられ、団体のスケールメリットを活かし、一般契約の約8割から9割となっており、割安な保険料で加入でき、広く会員に利用されています。

団体保険のメニューは、①政府労災上乗せ補償制度（労災総合保険）、②第三

者賠償責任補償制度（賠償責任保険）、③工事対象物補償制度（土木工事保険）の3種で、労災総合保険は、経営事項審査にて15ポイントが加算されます。
申込締切は、継続加入が6月25日、新規加入が7月13日となっていますので、この機会にご活用ください。

事務局の動き

- 【4月】
 - 1(火)・春の都市緑化推進運動～6/30
 - 国際園芸家協会スプリングミーティング～4/3
- 3(木)・運営会議
- 10(木)・総務委員会（広報活動部会）
- 技術委員会（調査・開発部会）
- 11(金)・アクションプログラム推進等特別委員会
- 国際委員会
- 12(土)・「桜を見る会」
- 14(月)・全国都市緑化祭記念祝賀会
- 15(水)・全国都市緑化祭
- ・みどりの月間～5/14
- 16(木)・技術委員会（技術情報・研修部会）
- 21(月)・登録基幹技能者制度推進協議会総会等

- 23(水)・造園技術フォーラム、交流会
- ・青島国際園芸博覧会、審査会、開会式
- 24(木)・総支部長・支部長合同会議、花と緑のつどい
- 25(金)・総支部長・支部長合同会議都市緑化フェア視察

- 【5月】
- 12(月)・褒章伝達式
- ・総務委員会（広報活動部会）
- 14(水)・大阪支部通常総会・懇親会
- 15(木)・技能五輪全国大会に係る合同委員会
- ・地域リーダーズ幹部会
- 19(月)・総務委員会（財政・運営部会）
- ・建設物価調査会との意見交換会（技術委員会）
- 21(水)・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
- ・「かながわのみどりを創り、育てる」集い
- 22(木)・運営会議

- ・日本造園建設業厚生年金基金理事会・代議員会
- 23(金)・監事監査
- 24(土)・第25回全国「みどりの愛護」のつどい
- 25(日)・技能五輪全国大会の課題トライアル
- 27(火)・植栽基盤診断士認定委員会
- 28(水)・総支部長等会議
- ・第1回通常理事会
- 29(木)・社会保険等未加入対策実務講習会
- （福島県支部）
- ・四国総支部総会・懇親会
- 30(金)・技術委員会（調査・開発部会）

委員会等の活動

- 総務委員会（財政・運営部会）
総支部長・支部長合同会議・造園技術フォーラムの開催等を審議した。(4/3)
- アクションプログラム推進等特別委員会
造園学会との連携・協力や造園業界の展望について審議した。(4/11)
- 国際委員会
平成25年度の事業報告と26年度の事業計画について審議した。(4/11)
- 総務委員会（広報活動部会）
日造協ニュース4月号～6月号の内容等について審議した。(4/10)

編集後記 紙面のリニューアルをして1年が経ち、編集後記の当番も3回目となりました。紙面版と電子版が隔月になっておりますので、電子版へのアクセスもよりしくお願いいたします。